

2025年度 法科大学院

第3期入学試験問題

4 時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 必ず〔民事訴訟法〕の解答は〔民事訴訟法〕の解答用紙に、〔刑事訴訟法〕の解答は〔刑事訴訟法〕の解答用紙に、記入してください。また、必ず解答用紙の解答欄に一つずつ記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

Xは、Yを被告として、1000万円の貸金返還を求める訴えを提起した（この訴えに係る訴訟手続を「本件訴訟」という。）。XとYは、第1回口頭弁論期日に出頭し、裁判所の和解の勧誘を受けて和解交渉をした。その結果、本件訴訟外で、Yが600万円を支払うこと、Yの支払後、Xが直ちに訴えを取り下げることとする和解が成立した。

その後、Yは、Xに対し、600万円支払ったが、Xは、訴えを取り下げなかった。

この場合、本件訴訟は終了したといえるか。もし終了していない場合、Yは、本件訴訟を終了させるため、受訴裁判所にどのような申立てと主張をするべきか。

[刑事訴訟法]

次の【事例】を読んで、後記〔設問〕に答えなさい。

【事例】

- 1 令和6年7月、A県B市内の古美術商3軒で、著名な彫刻家Cの彫刻を強取する強盗事件（2件は既遂、1件は未遂）が相次いで発生した（以下、「強盗事件3件」という）。Cの彫刻は1点ものであり、彫刻にCの刻印が押されていた。B警察署では、彫刻家Cの彫刻のコレクターによる犯行であると認め、被害者から犯人の人相を聞き出し、モンタージュ写真を作成し、他の古美術商に配布するなどして取り締まりを強化していた。
- 2 同年8月1日午後9時頃、B市内の古美術商V方において、犯人がVに出刃包丁を突き付け、「彫刻家Cの彫刻を出せ」と申し向けたが、Vが110番通報をしたため、犯人は何も取らずにその場から逃走した。
- 3 近くを警ら中であった警察官Pは、午後9時10分頃にV方に到着し、モンタージュ写真を見せて犯人の人相・年齢・服装等を確認したところ、「犯人はこの男に間違いない。犯人はうぐいす色のジャンパーを着て酒の臭いがする30歳過ぎの男である。」と供述した。そこで、警察官Pは、現場付近の巡回を開始し、午後9時20分頃、V方から約20メートル離れた路上において、モンタージュ写真及びVから聴取した犯人の人相・年齢・服装とよく似た風態の被疑者甲を発見し、職務質問を開始した。その際、甲は自分は犯人ではないと述べたが、甲から酒の臭いがした。そこで、警察官Pは、甲を、Vに対する強盗未遂事件（以下、「本件被疑事件」という。）の現行犯として逮捕した（①）。
- 4 甲は、8月1日、本件被疑事件により逮捕され、同月3日から22日まで勾留されたが、一貫して本件被疑事件を否認した。また、警察官Pは強盗事件3件について甲を取り調べたが、甲は一貫して否認した。甲方に対する搜索差押令状が発付されたが、甲方から彫刻家Cの彫刻は発見されなかった。また、捜査の過程で、甲は、令和5年1月にA県D市の古美術商に侵入して、Cの彫刻を盗み、窃盗既遂事件で懲役1年執行猶予3年の有罪判決を受けた前科（以下「本件前科」という。）があることが判明した。
- 5 検察官Qは、同月22日、甲を本件被疑事件及び強盗事件3件について公判請求した。検察官Qは、甲が犯人であることを立証するため、本件前科の内容が記載された判決書謄本の証拠調べを請求した（②）。

〔設問 1〕

①の現行犯逮捕の適法性について論じなさい。

〔設問 2〕

②の判決書謄本を甲が本件被疑事件及び強盗事件 3 件の犯人であることを立証するために用いることが許されるかについて論じなさい。